あなたの実践を大教組教研へ

教育条件確立の運動

子どもや青年が夢や希望の持てる楽しい学校を誰もが願っています。いま学校で働く教職員だけでなく、教育行政や保護者・地域住民みんなが協力し合って、夢と希望に溢れる学校をつくるとりくみが大切です。

大阪府は、日本一高い公立・私学の高校授業料、府立高校つぶし、障害児学校の過大・過密、教職員の定数削減、授業料減免制度の改悪など、教育予算を削減し、教育切りすてとしか言いようのない施策をとってきました。その結果、どの学校にも、教育諸条件の低下や教職員の大変な多忙化が生みだされています。私学助成の大幅削減や教職員の削減など橋下「改革」案は、これらをいっそう推しすすめるものです。大阪の子どもたちは、極めて貧困な教育条件の下におかれています。そして貧困と格差が広がっています。すべての子どもたちが大切にされ、その成長と発展が保障され、安心して学習することができる教育条件の整備が求められます。

谷口　武
（市高教・東商）
上村　康夫
（市障教・生野養）

教育課程・教科書問題

改訂学習指導要領が告示され、来年度にもその先行実施がおこなわれようとしています。今回の改訂は、さきの教育基本法・教育三法の改悪と一体になって進められており、その内容とともに権力的な圧力で日本の教育に一層のゆがみを拡大していきかねない重大事態と言わねばなりません。

教育課程・教科書問題分科会では、今までの改訂時に常に府下の実践を語り合い、子どもたちや保護者の願いに応えた学校づくりの方向を考えあってきました。今年は、ねらいと本質をしっかりと学び、国家の教育支配から子どもたちの瞳を守り輝かせるたしかな実践を深めあいたい、と願っています。職場の現実と前向きなとりくみを紡ぎあい明日を作る糧をみんなのものにしていきましょう。

常田　秀和
（南河内・彼方小）
山田　憲司
（堺・東三国丘小）

環境・公害問題と教育

現在、石油の高騰によるエネルギーの危機、穀物の高騰による世界的な食糧の危機が声高に叫ばれています。昨年の今頃も大企業のバイオエタノール増産で、トウモロコシなどの買い占めによる食糧不足の増大が言われていました。一年後の今、さらに危機的状況が深刻化しています。今こそ、長年、本分科会が研究目標の一つに挙げてきたサスティナブルソサエティ（永続可能な社会）を作るためのより深い論議が求められています。もう一つは、子どもたちがこれからの個々人の一生を大切に生きていくために何が必要か。自分たちのおかれている現状を知るために必要な基礎的な体験・訓練・学習・知識として何がいるのか。いろいろな教科の総合として成り立つ環境教育の具体的な日常の実践をふまえ、討議することが必要です。もちろんこれらに限らず、昨年出された廃プラリサイクル、アスベスト問題に見られる地域的環境破壊、公害の報告など、広く様々な分野の報告を求めています。

中川　秀一
（南河内・千代田小）
高橋　慶二
（交野・妙見坂小）
谷殿　茂明
（八尾・美園小）

生活科

生活科が始まって16年。今各学校では、低学年理科や社会科を経験していない若い先生を迎えています。一方、「何を教えているのかわからない」教科、「いろいろ体験しただけで終わる」時間などと、疑問を持ち続けている先生方も多くおられるのではないでしょうか。

今回の改訂学習指導要領では、今までの活動主義・態度主義の反省の上に「児童の知的好奇心を高め、科学的な見方・考え方の基礎を養うための指導の充実を図る必要がある」ことを実践したことの正しさを示すものになっています。

それに自信を持ち、自然や社会・人間に関する学びを大切にし、教科学習と連動した科学的認識を育てる「生活科」「総合学習」を追求していきたいと思います。

何よりも、子どもが目を輝かせて取り組める価値のある題材や内容を検討し、実践していきましょう。熱く学び交流を深めましょう。

小林　桂子
（東大阪・弥栄小）
向井　夫佐代
（柏原・国分小）

文化環境・文化創造と教育

深刻な不況がすすむ中で働く人々。毎日の暮らしの中で金儲けの対象として見られていく「文化」「子ども」。人間として幸せに生きていくためには、自分の力で「求めるもの」を創り出し、発展させていくことが必要です。

私たちは、これまで次の点を確かめあってきました。①地域の文化や歴史、平和の大切さを語り伝える。歌い続けることは人と人とのつながりを作り、広げていくことです。②人間への信頼を豊かに育む文化は広く人々の共感の輪を広げる。子どもたちはもちろん、大人たちも文化を吸収して成長していくのです。③個々の実践を互いに励ましあい、響き合う学校・職場づくり。平和で民主的な社会の形成へと発展させていかなければなりません。憲法、子どもの権利条約などは、私たちと私たちの子どもたちのためにあります。

自分の思いを形に表し、社会に発信することこそ文化の創造の出発点です。みんなで集まって大いに語りあいましょう。

堀口　清志
（元豊中・十七中）
宮本　貴子
（府障教・岸和田支援）

登校拒否・不登校、高校中退の克服

登校拒否・不登校状態のなかで、悩み苦しんでいる子どもたちやその家族、そしてどう対応していいのかと悩んでいる教職員・学校。

子どもたちは、「心の揺れ」を示しながらも、長い目で見たときには、家族、子ども集団や教職員、様々な人との豊かな交わりのなかで、「揺れつ戻りつ」大きな成長をとげていきます。

家族・教職員・関係者の思い、経験、とりくみを交流しましょう。それぞれの立場からの悩み苦しみ、思いを報告し、互いに豊かな感性をもって耳を傾け共感し、子どもたちの明日について語り合いましょう。

登校拒否・不登校の児童・生徒の子ども理解を、レポート・事例などを通じて深めましょう。そして、子どもたちの成長を願い、父母・地域・教職員の共同による、子どもを主人公にした学校づくりを、今こそ進めようではありませんか。

実森　之生
（市障教・本部）

切りとり線

レポート作成、提出について

3000字という字数制限をなくし、レポートの内容として以下の(1)～(3)の記述を求めます。

(1)レポートテーマ　提出分科会
　市町村・学校名
　一般の方は所属　氏名

(2)実践やとりくみの内容と経過
　●どのような実践に、どのような経過でとりくんだか。
　●子どもの様子・変化、学校・職場・父母の様子・変化、感想、資料　など。

(3)実践を振り返って交流したいこと、学び合いたいこと。

(4)締め切り　右のレポート提出届を９月16日（火）迄に、単組・支部教文部又は大教組教文部へ送付してください。

〒543－0021
大阪市天王寺区東高津町７－11
大阪府教育会館706号
大阪教職員組合　教文部宛
ＴＥＬ06－6768－2330
ＦＡＸ06－6768－2239

(5)大教組教研分科会当日にはレポートを50部用意してください。

あなたの日々の実践を寄せてください

（大教組教文部 FAX06－6768－2239）

第58次大教組教研レポート提出届

※印以外を記入して下さい

分科会No.	※	分科会名	
レポートタイトル			
市町村・学校名 一般の方は所属			
お名前			
連絡先　住所			
TEL　E-mail			
レポート報告にあたっての要望 時間・ビデオなど			

この用紙を使って申し込んで下さい

No.　　レポート要旨（200字）

12
15
20

（タテ書きでもヨコ書きでも可）